

平成 年 月 日

先生（様）

助産所名（ ）

助産師 印

報 告 書

拝啓 時下益々ご清栄のこととお慶び申し上げます。

当助産所にて分娩されました 様（ 歳）について以下のとおりご報告申し上げます。

記

分娩年月日 平成 年 月 日 時 分
（妊娠 週 日）

分娩経過

分娩所要時間 時間 分

出血量 少量 中量 多量

出産時の児の状態 男児 女児

体重 g 身長 cm

AP 点／ 点

産褥経過

特記事項

以上ご報告いたします。

平成 年 月 日

先生 (様)

助産所名 ()

助産師 印

妊産婦・ご家族への説明書

拝啓 時下益々ご清栄のこととお慶び申し上げます。

当助産所から貴医院(病院)に搬送となりました、様 (歳) とご
 家族()について以下のとおり説明を行いましたのでご報告申し上げます。

記

搬送理由

説明の要旨

以上

なお、分娩経過用紙、搬送連絡表も添付させていただきます。

「親子関係の早期確立のための母乳育児の達成度調査及び母親の満足度調査」

分担研究報告書

分担研究者 橋本 武夫 聖マリア病院母子総合医療センター統括
研究協力者 堀内 勁 聖マリアンナ医科大学小児科学教室教授
山内 芳忠 独立行政法人病院機構岡山医療センター小児科部長
杉本 充弘 日本赤十字社医療センター産科部長
永山美千子 日本母乳の会 フリージャーナリスト

研究要旨

WHO／UNICEFは以下に記す母乳育児成功のための 10 カ条を実行することは母乳育児を単に実践することができるようにするだけではなく、妊娠・出産・産褥の過程を主体的に取り組む事ができるようになると考えられる。そこで実際に赤ちゃんに優しい病院でケアを受けた母親達に郵送による質問紙法を用いて産後 1 カ月の実態を調査した。

その結果、多くの母親は妊娠期の指導に満足し、希望する分娩法が実現され、希望する母乳育児が達成され、その満足度も高かった。しかし、産後 1 カ月という親になる適応には困難性が伴い、憂鬱な気分になるものが多かった。ただし、エディンバラ産後うつスコアが高値をとる母親は一般ポピュレーションより低かった。今後の支援は「10 条-母乳で育てるお母さんのための支援グループ作りを助け、お母さんが退院するときにそれらのグループを紹介しましょう」の項目を地域と連携しておこなっていくことが必要である。今回は有床産科診療所を対象としたが、今後病院産科での評価、BFH ではない施設との比較が必要と考えられた。

A. 研究目的

妊娠出産の安全性と快適性の調和は周産期医療従事者の支えのもとに、産む主体である女性がみずからの生殖能力を最大に発揮することであり、妊娠出産産褥を通してみずからをエンパワーしていくことで達成される。

WHO／UNICEFは以下に記す母乳育児成功のための 10 可条を作成し、この 10 カ条を実践している産科施設を赤ちゃんに優しい病院(以下 BFH)と認定している。

1. 母乳育児推進の方針を文書にして、すべての関係職員がいつでも確認できるようにしましょう。
2. この方針を実施するうえで必要な知識と技術をすべての関係職員に指導しましょう。
3. すべての妊婦さんに母乳で育てる利点とその方法を教えましょう。
4. お母さんを助けて、分娩後 30 分以内に赤ちゃんに母乳をあげられるようにしましょう。
5. 母乳の飲ませ方をお母さんに実地に指導しましょう。また、もし、赤ちゃんをお母さんから離して収容しな

ければならない場合にも、お母さんに分泌維持の方法を教えましょう

6. 医学的に必要でないかぎり、新生児には母乳以外の栄養や水分を与えないようにしましょう。
7. お母さんと赤ちゃんが一緒にいられるように、終日、母子同室を実行しましょう。
8. 赤ちゃんが欲しがるときは、いつでもお母さんが母乳を飲ませてあげられるようにしましょう。
9. 母乳で育てている赤ちゃんにゴムの乳首やおしゃぶりを与えないようにしましょう。
10. 母乳で育てるお母さんのための支援グループ作りを助け、お母さんが退院するときにそれらのグループを紹介しましょう。

この 10 カ条は母乳育児だけの推進と思われがちであるが、実際には妊娠期からみずから産む力をつけ、産褥期を通してわが子と自分自身が母親になっていくプロセスに向き合い、出産後の育児グループのなかで、互いに連携し、プロモートすることで、ひと組の夫婦から親へと変化していく一連の過程を支援するという意味を持つ。

我が国で BFHI に認定されている産科施設で出産した母親達に産前および、母乳育児についての満足度を調査し、クライアント側から見た妊娠出産の安全性と快適性の調和についての評価をくわえた。

B. 研究方法

BFHI に認定されている産科施設(今回は単科開業の産科診療所を対象とした)で出産した産後1カ月の母親に、1カ月健診時にその産科施設をとおして質問紙(表1)を渡し、回答を求めた。健診を受けた母親のほぼ全員が答えている。

内容は周産期の背景、母親となった実感、育児についての現在の感想、分娩の満足度、産褥期に体験した母子同室、母乳育児についての満足度、不満、安全性と快適性についての評価を売るためのものである。また現在の母性心理についての評価をするためにエディンバラ産後鬱スコア、花沢の対児感情評定尺度、わが子の気質と育てやすさの主観的評価なども記載してもらった。対象となった施設数は22であり、回答者は815名の母親である。

C. 研究結果

1. 対象の背景(表2)

母親の年齢分布は 29.9±4.4(17~44)歳、妊娠期間は 39.2±1.3(35~42)週、出生体重 3051±398(1875~4286)g、男児対女児の比率は 422:387、不明6であった。生児の数は第1子 388(47.6%)、第2子 318(39.0%)、3子 91(11.2%)、4子 11(1.3%)、5子 5(0.6%)、6子 1(0.1%)、無回答 1(0.1%)であり、半数弱が初産婦であった。

<表2>対象の背景

母親の年齢	29.9±4.4(17~44)
在胎	39.2±1.3(35~42)
出生体重	3051±398(1875~4286)
男児:女児	422:387

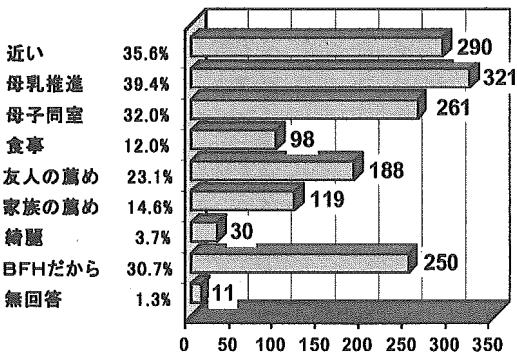
生児の数

順位	数	%
1児	388	47.6
2児	318	39.0
3児	91	11.2
4児	11	1.3
5児	5	0.6
6児	1	0.1
無回答	1	0.1

2. 妊娠・出産サービスについての評価

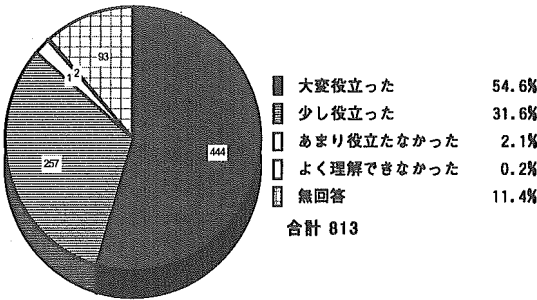
分娩施設を選択した理由は母乳推進の施設だから 321(39.4%)、自宅から近いから 290(35.6%)、母子同室だから 261(32%)、BFHIだから 250(30.7%)、友人の薦め 188(23.1%)、家族の薦め 119(14.6%)、食事がよいから 98(12%)、綺麗だから 30(3.7%)、無回答 11(1.3%)であった。選択理由の最多は母乳育児を推進していることであり、ついで母子同室であること、近いことが上位にあり、施設の綺麗さ、食事のおいしさなどは下位にランクされていた。また選択理由に友人からの推薦が、家族の推薦より多く、産科施設を選択は口コミによる影響があることも興味深い。(図1)

図1 出産場所を選択した理由



妊娠中のサービスとして妊婦学級がおこなわれるが、母親による評価は大変役立った 44(54.6%)、少し役立った 257(31.6%)、あまり役立たなかった 17(2.1%)、よく理解できなかった 2(0.2%)、無回答 93(11.4%)であった。86.2%の母親がおおむね役に立ったと答えている。(図2)

図2 妊婦学級の評価



母親達が希望していた分娩様式は自然分娩 734(90.8%)、麻酔分娩 25(3.1%)、帝王切開 13(1.6%)、特になし 29(3.6%)、その他 7(0.9%)、無回答 9(1.1%)であった。実際の分娩様式は経膣自然分娩 (671)82.3%、吸引分娩 46(5.6%)、無痛分娩 17(2.1%)、帝王切開 70(8.6%)、無回答 11(1.3%)であり、経膣自然分娩の達成率は 91.4%であった。帝王切開率は極めて低いが、妊娠中から自分が帝王切開になると考えていた妊婦の約 5.4 倍が実際には帝王切開を受けていたことになる。従って自然分娩そのものに固執しているわけではなく、分娩進行とともに適切な分娩管理がおこなわれていることがうかがわれた。(表 3)

<表 3>

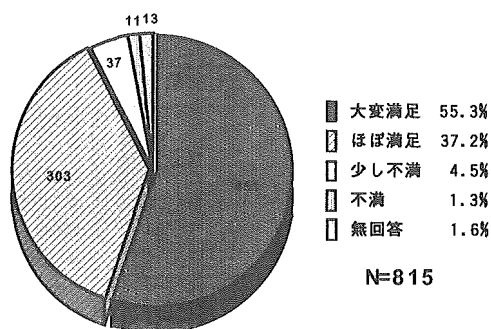
●希望していたお産 ●実際のお産

分娩様式	数	%	分娩様式	数	%
自然分娩	734	90.8	経膣自然分娩	671	82.3
麻酔分娩	25	3.1	吸引分娩	46	5.6
帝王切開分娩	13	1.6	和痛分娩	0	0
特になし	29	3.6	無痛分娩	17	2.1
その他	7	0.9	帝王切開	70	8.6
無回答	9	1.1	無回答	11	1.3

お産の満足度(図 3)については大変満足 451(55.3%)、ほぼ満足 303(37.2%)、少し不満 37(4.5%)、不満 11(1.3%)、無回答 13(1.6%)と大変満足とほぼ満足を合わせると 92.5%の母親が自分の出産体験に満足を示している。

平成 12 年度幼児健康度調査による妊娠・出産について満足している者の割合は 84.4%であることから BFH に認定された施設での出産体験は納得の

図3 お産の満足度



いくものであることがうかがえる。

3. 産褥サービスの評価

妊娠中から母乳育児を願っていた女性の比率を示す(表 4)。

<表 4> 母乳育児への意志と実際の栄養法

●母乳育児への意志

<栄養法>	数	%
是非母乳で育てたい	521	64.2
できるだけ母乳で育てたい	235	29
できたら母乳で育てたい	33	4.1
どちらでもよい	20	2.5
人工乳で育てたい	2	0.2
無回答	8	1.0

●現在の栄養法

<栄養法>	数	%
母乳だけ	698	85.5
ほとんど母乳	46	5.6
少量補充栄養	41	2.8
ほとんど人工乳	23	5
人工乳	4	0.5
無回答	3	0.5

是非母乳で育てたい 521(64.2%)、できるだけ母乳で育てたい 235(29%)、できたら母乳で育てたい 33(4.1%)、どちらでもよい 20(2.5%)、人工乳で育てたい 2(0.2%)、無回答 8 (1.0%)と 97.3%の母親は妊娠中から母乳で育てたいと願っていたことになる。表 4 右に現在のわが子に対する栄養法を示した。母乳だけ 698(85.5%)、ほとんど母乳 41(5%)、少量補充栄養 46(5.6%)、ほとんど人工乳 23(2.8)、人工乳 4(0.5)、無回答 3(0.5%)であった。

妊娠中になんらかの形で母乳育児をおこないたいと思っていた妊婦の 99.4%が完全母乳育児、もしくは少量の人工栄養補充のみで 1 カ月現在を過ごしていることになる。すなわち BFH での妊娠・産褥期の支援を受けるとほとんどの女性は自分の思い通り、母乳育児が達成できることを示している。

出産直後からの母子同室は BFHI のための必須条項である。実際の母親達の思いを調査した(表 5)。

出産直後からずっと子どもと一緒にいたかった 693(85%)、休息後から母子同室にして欲しい 96(11.8%)、母子同室は日中だけにして欲しい 12(1.5%)、母子異室が希望 3(0.4%)、無回答 11(1.3%)であった。実際に出産直後からの母子同室を体験した産後 1 カ月の時点での感想は嬉しかった 563(69.1%)、つらいが嬉しい 229(28.1%)、嬉しいけどつらい 5(0.6%)、つらかった 4(0.5%)、無回答 15(1.8%)であった。

すなわち、母子同室は無条件に産褥期を病人のように何もしないで過ごす楽さではなく、つらさを抱えながら生まれ出でた我が子と乗り切ることができたという嬉しさを感じる時期であり、そうした意味ではなんらかの形で母子同室を希望した母親の 98.9%は肯定的体験として完全母子同室をとらえていることがわかる。

<表5>完全母子同室について

○母子同室への意思

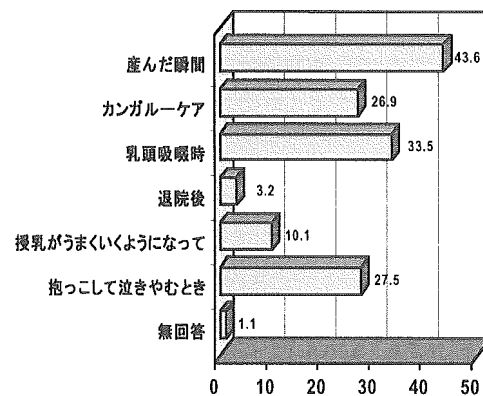
	数	%
ずっと一緒にいたかった	693	85
休息後から母子同室にして欲しい	96	11.8
日中だけ母子同室にして欲しい	12	1.5
母子異室が希望	3	0.4
無回答	11	1.3

○完全母子同室の感想

<感想>	数	%
嬉しかった	563	69.1
つらかった	4	0.5
つらいが嬉しい	229	28.1
嬉しいけどつらい	5	0.6
無回答	15	1.8

母親になった実感がわいた時については(複数回答)(図4)、産んだ瞬間 355(43.6%)、乳頭を吸われた時 273(33.5%)、カンガルーケアをおこなった時 219(26.9%)、抱っこして泣きやむとき 224(27.5%)、授乳がうまくいくようになって 82(10.1%)、退院後 26(3.2%)、無回答 9(1.1%)であった。すなわち産褥期の日常的な母子のふれあいの中で母親となって

図4 母親なった実感が湧いたとき



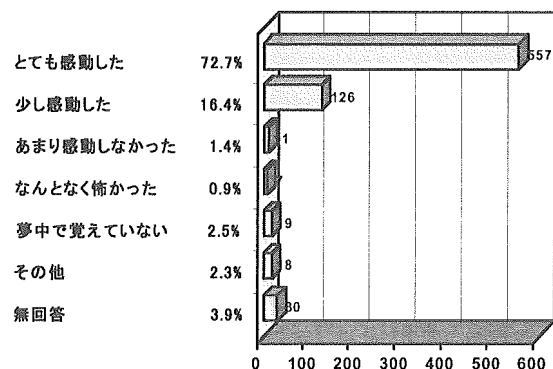
いくプロセスを確実なものとしている。

10 カ条では出産後 30 分以内の授乳を推薦しているが、最近では新生児行動、母性心理についての理解から出産直後から母親の胸で新生児を過ごさせることが広くおこなわれているが、その体験をした母親達の感想を調べた(図5)。

その結果はとても感動した 584(71.7%)、少し感動した 134(16.4%)、あまり感動しなかった 12(1.5%)、なんとなく怖かった 7(0.9%)、夢中で覚えていない 20(2.5%)、その他 20(2.5%)、無回答 41(5.0%)であった。カンガルーケアに対して 88.1%の母親は肯定的感想を述べていた。

しかし、皮膚接触は多くの場合に親近感を強く感じさせるが、妊娠に否定的想いを持っていたり、養育体験が貧困であった場合には、時に嫌悪感を生じさせてしまう側面があり、11%の産婦にとっては肯定的体験ではなかった。

図5 カンガルーケアの感想



●出産直後のカンガルーケアの感想

	数	%
とても感動した	584	71.7
少し感動した	134	16.4
あまり感動しなかった	12	1.5
なんとなく怖かった	7	0.9
夢中で覚えていない	20	2.5
その他	20	2.5
無回答	41	5.0

4. 出産施設に対する総合評価(表6)

以上のような体験をした母親の出産施設に対する満足度は(表6左)大変満足 513(62.9%)、ほぼ満足 231(28.7%)、満足 45(5.5%)、不満 14(1.7%)、記載なし 12(1.5%)であった。すなわち 97.1%の母親は出産施設に満足していた。

<表6> 出産施設に対する評価

●快適性の評価

満足度	数	%
大変満足	513	62.9
ほぼ満足	231	28.7
満足	45	5.5
不満	14	1.7
記載なし	12	1.5

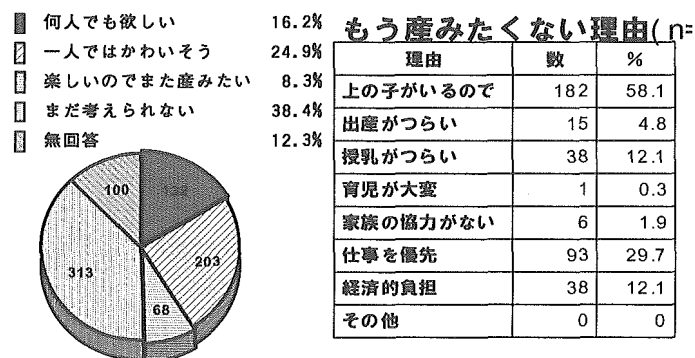
●安全性の評価

	数	%
不安なし	594	72.9
少し不安	202	24.8
不安あり	9	1.1
記載なし	10	1.2

また、出産の際に不安を感じたかどうかという設問に対する答え(表6右)は不安なし 594(72.9%)、不安あり 9(1.1%)、少し不安 202(24.8%)、記載なし 10(1.2%)であった。満足度に比較して安全性に対する評価は 72.9%とやや少ない傾向があった。

産後1カ月という早期ではあるが、次回の出産を望むかどうかを聴取した(図6左)。その結果はまだ考えられない 313(38.4%)、一人ではかわいそうだから産みたい 203(24.9%)、何人でも欲しい 132(16.2%)、楽しいのでまた産みたい 68(8.3%)、

図6 また産みたいです



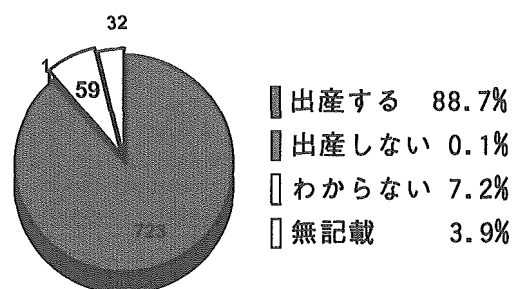
無回答 100(12.3%)であった。

49.4%の母親は出産直後にもかかわらず、次の妊娠を希望していた。

また、産みたくない理由として(図6右)、上の子がいるので 182(58.1%)、仕事を優先 93(29.7%)、経済的負担 38(12.1%)、家族の協力がいない 6(1.9%)、授乳がつらい 38(12.1%)、出産がつらい 15(4.8%)、育児が大変 1(0.3%)という結果であり、出産、授乳、育児の大変さよりも、家族、仕事、経済的理由のためが大勢を占めていた。

さらに次回の出産も BFH の認定を受けた施設でしたいかという設問には出産する 723(88.7%)、出産しない 1(0.1%)、わからない 59(7.2%)という答えが得られた(図7)。すなわち、BFH の妊娠・出産・産褥を通してのケアが母親達に受け入れられていることを物語っている。

図7 次回の出産もBFHで出産しますか

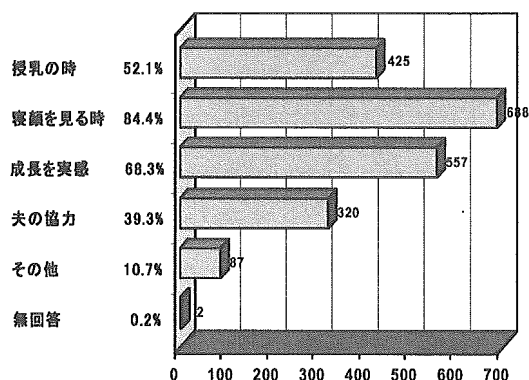


5. 母親の1カ月の時点での心理評価

産後1カ月の時点で幸せと感じる瞬間は寝顔を見る時 688(84.4%)、成長を実感する時 557(68.3%)、

授乳の時 425(52.1%)、夫が協力してくれる時 320(39.3%)、その他 87(10.7%)、無回答 2(0.2%)であった(図8)。

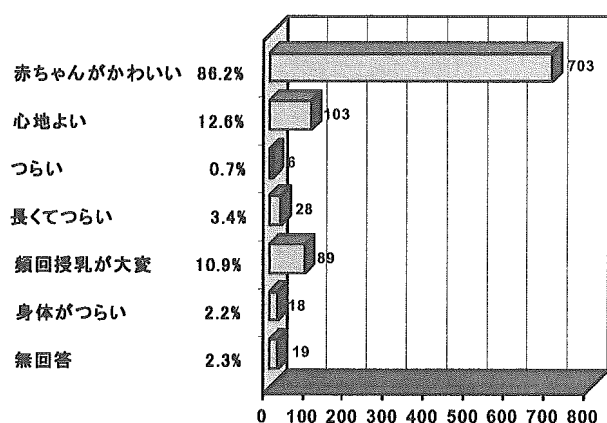
図8 幸せを感じる時



すなわち、些細と思えるようなごく当たり前の日常のなかで、自分が母親として十分に機能を果たしているという実感が得られた時に幸せの実感が得られている。また、子を育てるという母親の使命を果たす上で、夫が協力していることで、夫婦という単位が親子へと変化していく上でのパートナーシップを強く感じていることがわかる。

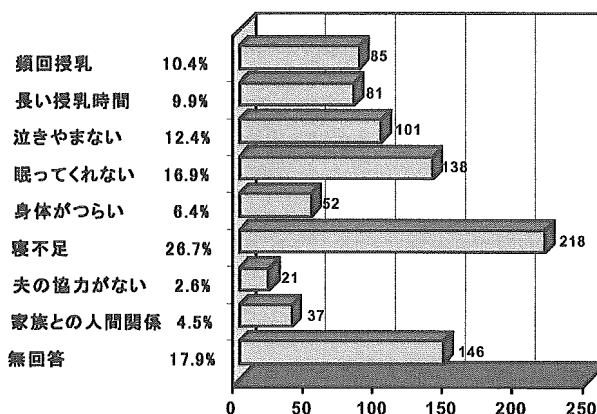
授乳という母性の象徴的行為をおこなっている時に母親が感じていることは、赤ちゃんがかわいい 703(86.3%)、心地よい 103(12.6%)とほとんどの母親が肯定的思いを述べているが、逆に頻回授乳が大変 89(10.9%)、授乳が長くてつらい 28(3.4%)、身体がつらい 18(2.2%)、つらい 6(0.7%)、無回答 19(2.3%)と産褥1カ月の適応の過程に 17.3%の母

図9 授乳中に感じること



親が身体的、心理的なストレスを感じている(図9)。1カ月現在でつらいと感じていることは、寝不足 218(26.7%)、眠ってくれない 138(16.9%)、泣きやまない 101(12.4%)、頻回授乳 85(10.4%)、長い授乳時間 81(9.9%)、身体がつらい 52(6.4%)、家族との人間関係 37(4.5%)、夫の協力が無い 21(2.6%)、無回答 146(17.9%)であった(図10)。

図10 現在のつらいこと



幼若乳児の日内リズムが妊娠前の女性のリズムと異なることからくる睡眠不足感、疲労感を訴えるものが多かった。また、育児の場での家族との軋轢、その双方を乗り切るために必要な夫の協力の不足などをあげていた。

実際には女性は妊娠中から睡眠・覚醒の日内リズムが変化し、出産後2カ月程度はその変化から回復しないことが知られている。

また、幼若乳児は午後2時から午前4時頃までが一番覚醒しやすいことも知られており、母親と乳児の日内リズムは他の時期と違って特有なものであるという知識の伝達が重要であると考えられる。

そうした産褥期の女性の心理状態を評価した。この時期は自分の思い描いていた子どものいる生活との較差が強く感じられ、産後うつが発症する時期でもあるので憂鬱な気分になるかどうかを聴取した(表7)。

憂鬱になることがよくある 20(2.5%)、時々ある 236(29.0%)、あまりない 437(53.6%)、全くない 119(14.6%)、無回答 3(0.4%)であった。全くないと答えた母親はわずか 14.6%にすぎず、多くの母親は程度の差はあれ、憂鬱になることがわかる。しかし、強度の憂鬱を自覚しているものは 2.5%であり、自

覚的には憂鬱気分になるものは少ないと思われる(表7左)。

憂鬱になった時期は出産後早期 59(28.4%)で入院中からすでに憂鬱になっていたものもあるが、退院後 139(66.8%)に憂鬱になるものも多く、時に退院後3週以上 10(4.8%)たってから憂鬱になるものもあった(表7右)。こうしたことから産褥入院中だけでなく、退院後も支援が必要な母親達がいることを注目しなくてはならない。

＜表7＞●憂鬱になる事がありますか

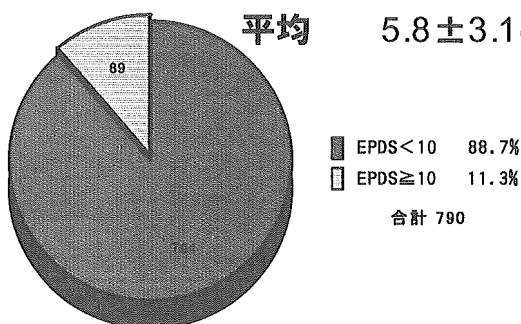
	数	%
よくある	20	2.5
時々ある	236	29.0
あまりない	437	53.6
全くない	119	14.6
無回答	3	0.4

●それはいつ頃ですか

＜時期＞	数	%
出産後早期	59	28.4
退院後	139	66.8
退院後3週以上	10	4.8

そこで、客観的産後うつの評価を行うためにエディンバラ産後うつスコア(EPDS)を実際につけてもらった(図11)。各項目全てを記載している790名を対象とした。うつのスクリーニングポイントを9点とすると10点未満は701名88.7%であり、10点以上は89名11.3%であり、平均スコアは 5.8 ± 3.1 (0～22)であった。

図11 エディンバラ産後鬱スコア

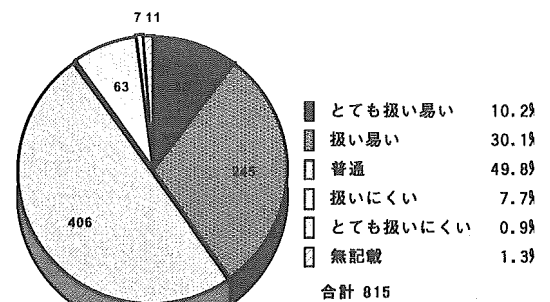


一般的に産褥期の EPDS がスクリーニングポイントより高い比率は15～20%といわれており、11.3%という比率は一般ポピュレーションよりやや低いと考えられる。

したがって母親達の憂鬱になるという気分は子どもをもつという人生上の一種の危機に対応する心理の表れであり、BFH でケアを受けた場合にはその危機にうまく向き合うことができていることが推察される。

育児中の母親の心理に強く影響する因子の一つとして子どもの気質があげられる。今回は客観的指標ではなく、母親の主観としての子どもの気質を取り上げた。第1に子どもの扱いやすさについての母親の印象を問うた(図12)。

図12 こどもの扱いやすさ



とても扱いやすい 95(11.7%)、扱いやすい 270(33.2%)、普通 402(49.4%)、扱いにくい 33(4.1%)、とても扱いにくい 4(0.5%)、無記載 10(1.2%)であった。わが子を扱いにくいととらえている母親は 4.5%いる。この扱いにくさの中心となる乳児行動は子どもの啼泣状態であり、母親の評価を3段階で記載してもらった(表8)。

あまり泣かない 371(45.5%)、よく泣く 372(45.6%)、すぐに泣く 44(5.4%)、無記載 28(3.4%)であり、半数すなわち 51%の母親はわが子が泣くと評価していた。特にすぐに泣くと評価した母親が 5.4%あった。

さらにわが子が泣いた時に母親がその泣きをコントロールできるかどうかをなだめられ易さで評価した。すぐ泣きやむ 194(23.8%)、少しして泣きやむ 498(61.1%)、泣きやまない 106(13%)、無記載 17(2.1%)であった。

比較的コントロールできている母親は 84.9%と大部分を占めるが、13%の母親がわが子をなだめるのに苦労していることがわかった。

<表8>

●泣きやすさ

	数	%
あまり泣かない	371	45.5
よく泣く	372	45.6
すぐに泣く	44	5.4
無記載	28	3.4

●なだめられ易さ

	数	%
すぐ泣きやむ	194	23.8
少しして泣きやむ	498	61.1
泣きやまない	106	13
無記載	17	2.1

こうした初期の子育て中の母親の赤ちゃん像を評価するため花沢の対児感情評定尺度を計測した(表9)。なお各項目について欠落のあるものは除外したため対象数は727名である。親近感を示す接近得点20以上63(91.3%)、否定的感情を示す回避得点10以上174(23.9%)、両価的感情を示す拮抗指数30以上242(33.3%)であった。

またそれぞれの指数の平均値は接近得点 28.4 ± 6.5 、回避得点 6.9 ± 4.9 、拮抗指数 25.1 ± 18.2 であった。すなわちBFHでケアを受けた母親は接近得点が極めて高いことが特徴的であった。

D. 考察

妊娠・出産・産褥期を通して女性は育てられるものから育てるものへと大きく転換していく。この大転換自ら主体的になされたとき、女性達及び、その家族にとってひととして大きく成長するきっかけとなる。妊娠・出産の生物・生理的变化としてとらえるだけではこの大転換を支援するには不十分である。産科医療はともすればこうした女性達の身体的変化を管理することが優先されてしまう。女性達が妊娠期間と陣痛期、出産期に生じる自分の身体変化、心理変化、そして胎児の成長と、我が子との出会いに向き合う支援を行うことが、「健やか親子21」での最大課題としてとらえられる。

表9 対児感情評定尺度

n=727

接近得点			回避得点			拮抗指数		
≥20	664	91.3	≥10	174	23.9	≥30	242	33.3
<20	63	8.7	<10	553	76.1	<30	485	66.7
平均	28.4 ± 6.5		平均	6.9 ± 4.9		平均	25.1 ± 18.2	

母乳育児はこうした、妊娠期、陣痛期、出産期、そして、産褥期を通して獲得されていく女性という性の生殖機能の一部であるとともに母子の結びつきの身体的・心理的明石でもある。勿論、どんな環境にあっても20%以上の女性は当然のごとくできてしまうことは我が国の戦後の母乳育児率の変遷をひもといてみても証明されている。しかし、最近20年間にわたって我が国の1カ月の時点での母乳育児率は40~50%の範囲に留まっている。

すなわち、本来の女性の生殖機能が完遂されるための妊娠期・出産期・産褥期のケアの提供が不十分であることになる。WHO/UNICEFの母乳育児成功のための10カ条の我が国への適用はこの期間の個々の女性に対するケアの向上を提案しているものと解釈できる。

そこで今回、我々は我が国のBFHのうち有床産科診療所でケアを受けた母親達の出産後1カ月の時点での自分の出産・産褥に対する満足度についてアンケートによる評価をおこなった。

結果はBFHが分娩施設として選択される理由としてやはり母乳育児の推進・母子同室があげられていた。また、出産という日常生活の延長にあることのためか自宅から近いことも重要な因子となっていたり、友人の推薦や家族の推薦により出産場所が選択されている。出産を大病院産科に集中させようという方策も考えられているが妊産婦の生活感覚と解離しないようにすることも大事となろう。

妊娠中のサービスとして母乳育児のための一貫した教育がおこなわれるためか妊婦クラスは高評価を受けていた。さらにBFHで出産する産婦は自然分娩指向が強く、麻酔分娩を指向するものは少数であった。希望する出産と実際の出産の一致も高か

ったが、分娩の性格上予定されない帝切も頻度は高くはないが実施されており、状況による判断がなされ、安全面でも大きな問題はないようであった。

自分の出産についてはほとんどの母親が自分の出産体験に満足であるとしており、平成 12 年度幼児健康度調査による妊娠・出産について満足している者の割合よりも高いことから、BFHI に認定された施設での出産体験は納得のいくものであったといえよう。

産婦にとっては産褥早期は出産からの回復とともに、その後の育児に繋がる時期であり、この時期のわが子との関わり合いがその後の育児に強い影響を与えるが、この時期の育児の準備として母乳育児の確立が重要な意味をもつ。実際に 97.3%の母親は妊娠中から母乳で育てたいと願っているが、そのうちの 99.4%が産後 1 カ月の時点で完全母乳育児、もしくは少量の人工栄養補充のみであり、BFH での妊娠・産褥期の支援を受けるとほとんどの女性は自分の思い通り、母乳育児が達成できることが示された。その背景には出産直後のカンガルーケアから始まる母子同室による濃厚な母子接触が強い動機づけと、実際の泌乳に繋がっていると考えられた。母子同室はつらさを抱えながら生まれ出でた我が子とその時期に直面するさまざまな適応過程をスタッフとともに乗り切ることであると推察される。母親となった実感は全て産んだ瞬間、乳頭を吸われた時、カンガルーケアをおこなった時、抱っこして泣きやむとき、授乳がうまくいくようになってなどの母親の身体感覚的体験に基づいており、産褥期の日常的な母子のふれあいの中で母親となっていくといえよう。

出産施設に対して、自分の受けたケアに満足している母親は極めて高率に及ぶが、小規模診療所のためか、安全性に不安をもつ産婦も多くは存在した。この点については次年度に計画している病院産科ではどのように母親達は感じているかの比較研究を待ちたい。特記すべきは産後 1 カ月という時期にもかかわらず、次の出産について期待を語る母親が多いことであろう。継続した妊娠期からのケアの提供は女性達に肯定的育児観を与えているものと考えられた。

産後 1 カ月はまだ、出産の混乱から抜け出してい

ない時期であるが、母親達は些細と思えるようなごく当たり前の日常のなかで、自分が母親として十分に機能を果たしているという実感が得られた時に幸せと観じている。また、子を育てるという母親の使命を果たす上で、夫が協力していることで、夫婦という単位が親子へと変化していく上でのパートナーシップを強く感じていることがわかった。こうした意味から男性の育児参加は現代育児にとって不可欠であると考えられる。

この子どもを育てるための適応の時期は一種の危機ととらえられるので、多くの女性達は多少のうつ傾向になるが、EPDS の点数が一般ポピュレーションよりやや低いことが注目される。このうつ傾向は子どもの扱いやすさ、泣き、家族との人間関係など複雑に絡み合いながら生じるので、X カ条の 10 条にあるように育児支援グループへの参加が問題解決の糸口になっていくのではないかと期待される。

対児感情評定尺度で特徴的なことは接近得点、すなわちわが子に親近感を感じている親が多いことである。これは出産直後からの母子同室が強い効果を発揮しているためと考えられた。

E. 結論

BFH で出産した母親達の妊娠・出産・産褥・母乳育児について調査したが、母乳育児成功のための 10 カ条をもとに組み立てられたプログラムを適用することにより、母親達は出産を介して変化する自分自身の身体的、心理的、社会的役割へ適応していくプロセスが営まれている。

完全母子同室と完全母乳を目指す時、産科スタッフと母親との妊娠期から産後にかけて専門職としての支援とともに特有な場が形成され则认为られる。その結果が母乳育児率が向上し、出産に対しての満足感が得られていくものと思われる。しかし、心理指標によれば、単に母乳分泌ができただけではこの時期の困難性が全て解決できるわけではないこともわかった。妊娠期から出産、産褥期、その後の育児期へとシームレスな支援体制を形成していくことが課題であると考えられる。今回は有床産科診療所を対象としたが、今後病院産科での評価、BFH ではない施設との比較が必要と考えられた。

お 願 い

母乳育児は赤ちゃんにとってもお母さんにとっても大切なことで、お母さんをお母さんらしく、赤ちゃんを心身ともに健康に育てると言われています。しかし、お母さん方は、実際に、母乳で育てられるのだろうか、本当にお乳が出るのだろうかといった期待と不安が入り交じった状態で開始されることが多いようです。私たち日本母乳の会は、母乳育児の支援と推進をしまいいりました。お母さん・お父さん・ご家族の皆様が、安心して子育てを行えるように支援をしております。

今回、厚生科学研究として“赤ちゃんにやさしい病院”で、出産し、育児を開始したお母さん方の現状を知りたいと思い、質問用紙による調査をさせていただきたいと考えました。この調査を通して、子育てについての調査結果を今後の我が国における母子保健に反映させたいと存じます。

この研究で私たちが知った個人名や個人情報は公表されることはなく、データだけが集計されます。ご安心下さい。もし、この調査にご賛同いただければ、ご協力をお願いいたします。

日本母乳の会運営委員長 橋本武夫

<アンケート内容>

- ・お母さまの年齢をお教えてください。 _____ 歳
- ・お子様の日（月）齢をお教えてください。 現在（ _____ 日目）頃、（ _____ カ月）頃
- ・お子様の出生は、妊娠の何週で生まれましたか。（ _____ ）週
- ・生まれたときの体重は（ _____ ）gでした。
- ・分娩様式をお教えてください
経膣自然分娩、吸引分娩、和痛、無痛分娩、帝王切開（○をつけてください）。
- ・性別は、 男の子 女の子（○をつけてください）。
- ・何番目のお子さんですか（ _____ 番目）。

アンケート項目（該当するものに○をつけてください）。

1. 現在の育児についてお伺いします

1) 栄養法は

- ①母乳だけ ②ほとんど母乳 ③ 混合栄養(母乳が多い) ④混合栄養(人工乳が多い) ⑤人工乳だけ

2) 今、楽しいこと、うれしいことはどんなこと（時）ですか（複数回答可）

- ① 授乳しているとき ② 寝顔を見ているとき ③赤ちゃんの成長を実感したとき
④ 夫が協力してくれたとき ⑤ その他（ _____ ）

3) 今、大変なこと、つらいと思っていること（時）は何ですか（複数回答可）

- ① 頻回授乳 ②授乳に時間がかかる ③泣き止まない ④赤ちゃんが寝てくれない
⑤ 自分の体がつらい ⑥寝不足と思う ⑦ 夫の協力が無い ⑧家族との人間関係

4) 気分が憂鬱になることがありますか

- ① よくある ② ときどきある ③ あまりない ④ 全くない

5) よくある、時々あると応えた方へ、それは、何時頃からですか

- ① 出産後すぐから、 ② 家に戻ってから ③ 産後 _____ 日目ごろから
それは、どんな時ですか（ _____ ）

6) 自分が母親になったと感じたのはどんなときですか

- ① 赤ちゃんを生んだ瞬間 ② カンガルーケアのとき ③ 乳首を吸われたとき ④ 家に戻ってから
⑤授乳がうまくいくようになったとき ⑥ 赤ちゃんを抱っこして泣き止んだとき

7) あなたは”赤ちゃん”を頭に思い浮かべた時に、どのような感じがしますか。下の言葉を見たときに、どの段階に当てはまるでしょうか。あなたの気持ちに合うところに○をつけて下さい。

<記入例> うるわしい |-----○-----|

あまり深く考えないで、直感的に判断して下さい。

非そ そ 少そ そこ
常の の しの んと
にと と と なは
お お お な
り り り い

非そ そ 少そ そこ
常の の しの んと
にと と と なは
お お お な
り り り い

あたたかい	-----	あかるい	-----
よわよわしい	-----	なれなれしい	-----
うれしい	-----	あまい	-----
はずかしい	-----	めんどくさい	-----
すがすがしい	-----	たのしい	-----
くるしい	-----	こわい	-----
いじらしい	-----	みずみずしい	-----
やかましい	-----	わずらわしい	-----
しろい	-----	やさしい	-----
あつかましい	-----	うっとうしい	-----
ほほえましい	-----	うつくしい	-----
むずかしい	-----	じれったい	-----
ういういしい	-----	すばらしい	-----
てれくさい	-----	うらめしい	-----

あなたのお子さんについての印象を下のスケールに○で記載して下さい

すぐに泣く	よく泣く	あまり泣かない		

泣き出すと泣き止まない	泣き出しても少しして泣き止む	泣き出してもすぐ泣き止む		

とても扱いやすい	扱いやすい	普通	扱いにくい	とても扱いにくい

8) 最近の1週間に、あなたが感じられたことに最も近い答えにアンダーラインを引いて下さい。

必ず、10項目についてお答え下さい。

例) 私は幸せである。・・・・・・たいていそうです。

いつもそうではない。

全く幸せではない。

〔質問〕

- | | |
|--|--|
| 1. 笑うこともできるし、物事のおもしろい面もわかる。
(0) いつもと同様にできる。
(1) あまりできない。
(2) 明らかに出来ない。
(3) 全くできない。 | 6. することがたくさんある時に
(3) ほとんど対処できない。
(2) いつものようにうまく対処できない。
(1) たいていうまく対処できる。
(0) うまく対処できる。 |
| 2. 物事を楽しみにして待つことができる。
(0) いつもと同様にできる。
(1) あまりできない。
(2) 明らかにできない。
(3) 全くできない。 | 7. 不幸せで、眠りにくい
(3) ほとんどいつもそうである。
(2) 時々そうである。
(1) たまにそうである。
(0) 全くない。 |
| 3. 物事がうまくいかない時、自分を不必要に責める。
(3) 常に責める。
(2) 時々責める。
(1) あまり責めない。
(0) 全く責めない。 | 8. 悲しくなったり、惨めになる。
(3) ほとんどいつもある。
(2) かなりしばしばある。
(1) たまにある。
(0) 全くない。 |
| 4. 理由もないのに不安になったり、心配する。
(3) 全くない。
(2) ほとんどない。
(1) 時々ある。
(0) しょっちゅうある。 | 9. 不幸せで、泣けてくる。
(3) ほとんどいつもある。
(2) かなりしばしばある。
(1) たまにある。
(0) 全くない。 |
| 5. 理由もないのに恐怖に襲われる。
(3) しょっちゅうある。
(2) 時々ある。
(1) ほとんどない。
(0) 全くない。 | 10. 自分自身を傷つけるのではないか
という考えが浮かんでくる。
(3) しばしばある。
(2) ときにある。
(1) めったにない。
(0) 全くない。 |

II 産院を選んだ理由を伺います

- ① 近くだから ② 母乳育児に熱心だから ③ 母子同室だから ④ 食事が美味しいと聞いていたから
⑤ 友達に聞いて ⑥ 家族にすすめられた ⑦ 建物がきれい ⑧ 「赤ちゃんにやさしい病院」だから

III 妊娠中のことについてお伺いします

1) 妊婦教室や両親教室の情報についておたずねします

- ① 大変役立った、 ② 少し役立った、 ③ あまり役立たなかった、 ④ よく理解できなかった

2) 妊娠中、母乳で育てることについては、どう思っていましたか

- ① 是非、母乳で育てたい ② 出来るだけ母乳で ③ できたら母乳で
④ 人工乳でも母乳でもどちらでも良い ⑤ 人工乳で育てたい

3) 妊娠中、母子同室については、どう思っていましたか

- ① 生まれてからずーと一緒にいること ② 私が少し休んでから一緒にいること
③ 夜だけは預けられること ④ できれば別室で過ごしたい

①出来るだけ自然に生みたい ②麻酔分娩で痛みをとって生みたい ③帝王切開で
④特になし ⑤その他 ()

1) お産について

①実際のお産は大変満足できた、 ②ほぼ満足できた、 ③少し不満であった、
④不満だった（その理由）

①とても感動した ②少し感動した ③あまり感動しなかった ④なんとなく怖かった
⑤夢中で覚えていない ⑥その他 ()

①赤ちゃんといつも一緒にいてうれしかった ②赤ちゃんといつも一緒に、つらかった
③赤ちゃんといつも一緒に、つらかったけれど、うれしくなった
③赤ちゃんといつも一緒に、うれしかったけれどもつらい気持ちが多かった

①授乳していると赤ちゃんがかわいい ②授乳は自分の心身に心地よい ③授乳しているとつらい
④授乳が長くてつらい ⑤授乳が頻回で大変だ ⑥自分の体がつらい

1) 次の子も産みたい

①子どもは何人でも欲しい ②子どもが1人ではかわいそう
③出産、授乳が楽しかったので、また、生みたい ④まだ、考えられない

① ____子までいるので ②出産がつらかったので ③授乳がづらい ④子育てが大変
⑤夫や家族の協力がいない ⑥仕事を優先したい ⑦経済的に大変 ⑧その他

1) 妊娠中、分娩、産後の支援や快適性はいかがでしょうか

①大変に満足、 ②ほぼ満足 ③満足 ④不満が残る(その理由)

①不安を案じた事はない ②少し不安があった ③不安を感じた

①はい ②いいえ ③わからない

54

アンケートにご協力いただいた「赤ちゃんにやさしい病院(BFH)施設(認定順)

施設名	〒	住所	電話	ファクス
石井第一産科婦人科クリニック	434-0042	静岡県浜松市小松4498-5	053-586-6166	053-586-6612
高田医院	503-2305	岐阜県安八郡神戸町大字神戸	0584-27-2015	0584-27-8621
笠松産婦人科・小児科	599-0211	大阪府阪南市鳥取中192-2	0724-71-3222	0724-73-0321
梅田病院	743-0022	山口県光市虹ヶ浜3-6-1	0833-71-0084	0833-71-0818
杉田産婦人科医院	400-0046	山梨県甲府市下石田2-7-17	0552-28-8333	0552-28-8334
井上産科婦人科	858-0913	長崎県佐世保市新田町707-5	0956-48-4800	0956-48-4241
くまがい産婦人科	870-0254	大分県大分市横塚2-4-5	097-592-1000	097-592-0300
津医療生協 白塚診療所	514-0101	三重県津市白塚町3568-4	059-232-0749	059-232-4460
山田産婦人科医院	445-8601	愛知県西尾市若松町38	0563-56-3245	0563-54-5373
上田市産院	514-1101	長野県上田市常磐城5-6-39	0268-27-1573	0268-22-1588
ゆのはら産婦人科医院	860-0812	熊本県熊本市南熊本5-9-3	096-372-1110	096-372-1106
ごぎそレディースクリニック	466-0027	愛知県名古屋市中昭和区阿由知通り3-10	052-732-9733	052-732-9732
くぼかわ病院	786-0002	高知県高岡郡窪川町見付902-1	0880-22-1111	0880-22-1111
黒川産婦人科医院	020-0013	岩手県盛岡市愛宕町2-51	019-651-5066	019-651-5064
宇津野医院	304-0063	茨城県下妻市下妻丁373-15	0296-45-0311	0296-45-0313
熊本市立熊本産院	860-0821	熊本県熊本市本山3-5-11	096-325-3259	096-325-3579
森下産婦人科医院	812-0025	福岡県福岡市博多区店屋町8-10	092-291-0328	092-291-5070
あわの産婦人科医院	939-0626	富山県下新川郡入善町入膳229-3	0765-72-0588	0765-74-0428
サンクリニック	703-8269	岡山県岡山市中井221-1	086-275-3366	086-275-3663
産科婦人科愛和病院	811-3101	福岡県古賀町天神5-9-1	092-943-3288	092-943-4576
西川レディースクリニック	507-0054	岐阜県多治見市宝町3-98	0572-25-3800	0572-25-3833
内野産婦人科医院	840-0054	佐賀県佐賀市水ヶ江2-4-2	0952-23-2360	0952-22-1243

健やか親子 21 推進協議会
課題 2

妊娠・出産に関する
安全性と快適さの確保と不妊への支援

幹事会 議事録
(平成 13 年～16 年)

●健やか親子 21 推進協議会 課題 2「妊娠・出産に関する安全性と快適さの確保と不妊への支援」

第 1 回幹事会 議事録

日 時：平成 13(2001)年 7 月 17 日 10:30～12:00

場 所：横浜インターコンチネンタルホテル 30F 会議室

出席者：日本助産婦会————岡本喜代子、長濱博子

日本母性保護産婦人科医会—朝倉啓文

日本母乳の会————橋本武夫、堀内 勁、永山美千子

(欠席：日本産婦人科学会)

＜決定事項＞

- 1) 各団体から—推進協議会における今年度の取り組みと提言
 - ・日本母乳の会の説明、助産婦会の取り組みと課題、日母の取り組みの説明
 - ・年度末にシンポジウムが開く事ができるかを検討課題とする
- 2) 今後の会議の持ち方について
 - ・司会は持ちまわりにする
- 3) 幹事会と他の団体との連携
 - ・まず、助産婦会が担当で次回までに、他団体の案を整理し、まとめてくる
- 4) 次回会議
 - ・9 月 21 日(金)18:00
- 5) その他
 - ・今回の会議費用は 4 団体で当分に負担する—総計約 20,000 円

＜議事録＞

永山(母) 健やか親子 21 推進協議会・課題 2 の幹事会の世話人をします日本母乳の会の永山です。この幹事会は厚生労働省の方から選定されました。課題 2 を勧めるに当たっての幹事会として今年度、どんなことをして行くのか話し合っって欲しいとの要請で開かれました。日本母乳の会が連絡調整役となりましたので、本日は私どもの委員長の橋本武夫が司会をさせていただきます。今後は司会は持ちまわりにしたらよいと思います。

司会：橋本(母) 日本母乳の会の橋本です。聖マリア病院です。それではまず、自己紹介を兼ねて各団体の取り組み課題について、お話を願います。

厚生労働省は「健やか親子 21」の政策を 10 年間で達成するとして、最初の 5 年間に重点を置いています。この幹事会は課題 2 の妊娠出産、不妊への支援がテーマですが、学術的なことを勧めていくことではなく、一般の人々の立場に立って、どう進めていけばいいのかを論議し、社会的意味の強いことをある程度、打ち出していく会だと認識しています。その立場に立ってお話を勧めて行きたいと思います。まず、課題 2 の関連団体がどういう施策を出しているか、整理する必要があります。

日本母乳の会の活動は、学術団体ではなく母乳育児を勧めることはもちろんですが、母乳を通して、育児を考えて行こうとする活動です。母乳はシンボルとして考えていただきたい。母乳を飲ませると同時に母子が生まれた時から一緒にいることが大切と考えています。これは現代では母親に対する負荷テストのようなものですが、それを乗り越えることで子育てに向かえるために医療者の支援が必要と活動しています。ですから、母乳を飲ませられない母親への支援も大きな柱の一つとして考えています。ユニセフの委託を受けて、BFH(赤ちゃんにやさしい病院)の認定業務をしています。認定そのものが目的ではなく、地域に広げる役割を担ってくださいという意味です。

多くの赤ちゃんが母乳で育てられるようになれば BFH もいらなくなりますし、究極は日本母乳の会が必要なくなるという社会にすることです。日本母乳の会の誤解があるようですので、説明をさせていただきました。

堀内(母) 日本母乳の会の運営委員です。聖マリアンナ医科大学横浜市西部病院周産期センター・小児科です。周産期を視野にいたれた母親支援、父親支援が求められており、育児は周産期との連続性だと言うことの認識が必要ではないか。虐待問題の原点は周産期まで遡るという考え方、根本的なものにもう1回たどり着かなくてはならないし、虐待は周産期の問題がきわめて重大であることを知らせていくことが大事ではないかと考えています。

永山(母) 日本母乳の会の運営委員で事務局を担当しています。課題2の幹事会の世話人役です。仕事はフリーの編集者です。昨年、不妊症の本を担当したのですが、最近、不妊治療によって生まれた子どもに対する虐待が増えてきていると報告されて来ています。聖母病院の小児科医はそのデータを取る必要があるのではと言っております。多くの産科医は望まれて治療して生んだので、虐待なんて考えられないと言いますが、長い治療期間を経ての出産は赤ちゃんが生まれた時がゴールになってしまう人が多いようです。不妊治療で出産したからこそ、母子が一緒に過ごし、母乳を飲ませることが大事になってくると思います。そんな支援が必要かなと考えています。

岡本(助) 日本の助産婦は約24,000人で、日本助産婦会の会員は約7,000人です。女性がバースプランを出すことが当たり前となるように、母親たちの望むケアをどうやって作って行くか。また、病院勤務の助産婦にとっては病院分娩での快適性をどう作って行くか。また、プライマリーケアをやっているのか問われています。

・開業助産所の課題——安全性の確保。異常が見つかった時の搬送、2次救急、3次救急の問題、嘱託医療機関の整備が問題。産科医・小児科医との連携の整備も考えなくてはならない。

ハイリスクとローリスクを見分ける学問的裏付けを助産婦が身につけることが要求されています。現状は分娩に対する医師の役割、助産婦の役割がしっかりと確立していない。産科医療施設と助産所に対して情報を知らせて行くことが大事。核家族になってきている現在、助産婦の仕事としてのカウンセリングに力を入れていく。カウンセリングは困っていることを聞くだけでなく、子育て等継続的支援となることを目標としている。不妊治療については妊娠・出産と連続した問題として、体の治療だけでなく心のサポートも大切で、治療費の保健適用になる運動も必要という提起もしていきたい。

朝倉(日母) 日本母性保護医協会の朝倉です。日本医大です。健やか親子21の取り組む課題について作成中です。産後うつ病の発生についての対策に具体案がないのですが、いま、発生率を調査しています。母親たちが変わって来ていることをなかなか産科医たちが捉えきれない現状があり、小規模診療での電話相談システムを作りました。ホームページに掲載しています。

司会：橋本 本日は日本産婦人科学会の方がいらっしゃらないので、まずは顔合わせで、次回に課題2として何をするか討論したいと思います。それと他の団体の意向を聞く必要もあります。

岡本 次回までに、私どもが、課題2に参加している他団体の方針を整理してまとめます。

●健やか親子 21 推進協議会 課題 2「妊娠・出産に関する安全性と快適さの確保と不妊への支援」

第 2 回幹事会 議事録

日 時：平成 13(2001)年 9 月 21 日 18:00～20:00 場 所：東京・保健会館・日母医会会議室

出席者：日本産科婦人科学会———佐藤郁夫

日本助産婦会———岡本喜代子、長濱博子、神谷整子

日本母性保護産婦人科医会——朝倉啓文、鈴木俊治、松本澄子

日本母乳の会———橋本武夫、堀内 勁、永山美千子

厚生労働省———並木母子保健指導技官

議 題：

- 1) 厚生労働省雇用均等・児童家庭局並木さんより
- 2) 4 団体での取り組む課題についての再討議
前回に引き続き、現状の問題点、共通課題について
- 3) 取り組みの具体化について
・シンポジウム案、その他
- 3) 他の団体との連携について、
資料：助産婦会より

「妊娠・出産に関する安全性と快適さの確保と不妊への支援」について、幹事団体で内容のすり合わせをする必要があるのではないかということで、結論は出さず、討論としました。以下のような内容が議論されました。

- ・「～の安全性と快適性」とは何かのすり合わせの討論を行なう。
- ・安全性と快適性は相反しないという考えが必要ではないか
- ・産後の 1 週間の母子同室・母乳育児における母親が訴える疲労感、しんどさをどう解釈するか。
- ・母子同室での助産婦、医療者の意識、ケアが快適さを決めるものではないか
- ・母子同室・母乳育児を通して、育児力をつけることを快適さと捉えるか
- ・助産婦の職能と母親の達成感と双方が必要
- ・母親の選択の一つとしての豪華施設、豪華な食事の産科施設についての考え方
- ・具体的な問題をあげてすらわせていくことが必要

<議事録>

司会：岡本(助) 本日は日本助産婦会が司会をします。

並木(厚) 『健やか親子 21』推進協議会の団体は 8 月末で 69 団体となり、皆様のご協力に感謝いたします。今後の取り組みについては、幹事会で方向性をだしてほしい。厚生労働省としては費用がないので、幹事会のシンポジウムは子ども家庭総合事業と一緒にやっていくのがいいのではないかと。1 年毎にその事業などをまとめる方向で、皆様の協力を頂きたい。

司会：岡本(助) 幹事会としてどうしていくのかの討論をお願いします。まず、課題 2 に参加している団体は 19 団体です。

朝倉(日母) 健やか親子の事業が進んでいく中で考えて行く予定で、具体案はまだありません。

橋本(母) 日本母乳の会としては課題 2 については「母子同室」をきっかけに取り組むのがいいのではないかと考えています。